

やさしいまち マガジン



おもてなしの心で
みて・きいて・つくって
伝えるまちのこれから



すみだ やさしいまち宣言 人と地域と環境のために



わたくしたち墨田区民は、
21世紀という新しい時代を迎えるにあたり、
「やさしさ」や「おもいやり」の心を大切にして、
人と地域と環境に対してやさしいまちをつくり、
未来の世代に引き継いでいくために、
次のとおり行動します。

人と人とのふれあいを大切にして、お互いに支え合う
「人にやさしいまち」の実現に努めます。

まちをきれいにし、他人への迷惑行為や犯罪をなくし、
すべての人が安心して暮らせる
「地域にやさしいまち」の実現に努めます。

環境に配慮し、限りある資源を大切にする
「環境にやさしいまち」の実現に努めます。

やさしいまち マガジンの由来

ひとりひとりの「やさしさ」「おもしろいやり」を織りなして、
そんなまちの「これから」が形づくられていく。

「すみだやさしいまち宣言」は、平成12年よりスタート。

墨田区に暮らす私たちはもとより、地域団体や企業等、
さまざまな人々との連携により展開している区民活動です。

まちの「やさしさ」とは何だろうか？

どのような「これから」が良いのだろうか？

より良い未来へ向かうためにはどのようにしたら良いのだろうか？

この「やさしいまちマガジン」は、

私たち中学生と小学生が、やさしいまちをどうしたら実現出来るかを

考えるプロジェクトに参加して作りました。 私たちなりに、

それらの問いを探ってきた軌跡と成果をお伝えするものです。

まちに出て、さまざまなヒト・モノ・コトに触れ合いながら、

「すみだやさしいまち宣言」の心を

感じて・考えて・創って・伝えていく。それが私たちの活動です。

まちの方々は、いつも私たちを笑顔でむかえてくれました。

はじめて知ること、たくさんありました。

このマガジンを手にとっていただいた皆さまに、すみだのまちの
「やさしさ」や「おもてなし」の心が伝われば幸いです。

—— やさしいまちマガジン製作チーム ——



環境に やさしい まち

行動指針

- ① 環境について学習し、生活に活かそう。
 - ② 電気・ガス・水を大切に使う。
 - ③ 地球温暖化を防ごう。
 - ④ 地域の緑を守り育てよう。
 - ⑤ 雨水をたくわえ、活用しよう。
- 「もったいない」の気持ちを心がけよう。

地域に やさしい まち

行動指針

- ① 地域の安全と安心のため、防犯・防火につとめよう。
- ② たばこの吸い殻やごみのポイ捨てはやめよう。
- ③ ペットを飼うときは、マナーを守ろう。
- ④ 自転車や地域の人達と一緒に、家族や地域の活動に参加しよう。
- ⑤ 清掃活動や美化活動に参加しよう。

人に やさしい まち

行動指針

- ① 大人も子どもも進んで「あいさつ」し、人と人とのふれあいを大切にしよう。
- ② 家庭・地域社会・学校の連携で、健全で心豊かな青少年を育てよう。
- ③ 地域の行事に参加しよう。
- ④ おとしよりや体の不自由な方などを思いやり、お手伝いしよう。
- ⑤ 誰にでも、おもてなしの心で接しよう。

わたしたちが考えたアクション

ACTIONPLAN 05

地球環境と毎日の生活を
つなげて考える

**今のモットイナイ
が未来をつくる**

ACTIONPLAN 06

行動につながる学びを
ひろげる

**知らなきゃ、
自然も守れない。
ひとりひとりが
意識をつくろう。**

ACTIONPLAN 03

みんなで地域の
文化を育む

やるのは私達だ！

ACTIONPLAN 04

マナーやモラルを
大切にする

**心をつなげて
地域をつくる**

ACTIONPLAN 01

人それぞれを大切にする

**受け入れる！
25万の個性の違い**

ACTIONPLAN 02

人と人との
ふれあいの場をつくる

**まちをみんなの
お茶の間に**

マガジンができるまで

まちのやさしさを知るフィールドワーク

人にやさしい。地域にやさしい。環境にやさしい。すみだには、「やさしさ」を大切にしている人々がたくさんいます。それはまちの「財産」でもあります。中学生が、そんなまちの人々のもとへ、飛び出して、出会い、ふれあいを重ね、まちのやさしさを学びます。



小学生を「おもてなす」ツアー

フィールドワーク先を舞台に、今度は中学生が案内人。自分たちが感じたまちの「やさしさ」を小学生に伝えるツアーを行います。「おもてなし」をされる側からする側へ。立場が変わると世界も少し違って見えるものです。



アクションプランづくり／ マガジン編集

フィールドワークで感じたこと、自分が「おもてなし」をする側になってみて思ったことなども踏まえて、中学生目線による「すみだ やさしいまち宣言」のアクションプランを考案し、おもてなしのマガジンの原稿にしていきます。



まちのステージでの発表

マガジン以外にも、すみだまつりなどのまちのさまざまなイベントで、マイクを握って、成果を発表します。中学生のアイディアは、まちのあんなところこんなところ、あんなときこんなとき、いたる所と時に広がります。





ツアーで伝えた こんなやさしさ

ものづくりの 雰囲気漂うアトリエ

大きな革、靴の模型、見たことのない工具でいっぱいのアトリエの空間。自分たちがはじめて来たときの感覚を味わってもらおうと、まずは小学生と一緒に探検！小学生はいろいろなものを手にとったり、においをかいだり、観察したり、思い思いに空間を味わっていました。



「手づくり」にこだわる理由

「手づくりほど気持ちが伝わるものはない」と考えている曾田さん。自分がつくりたいと思う作品を丁寧に作りあげ、手にとり身に付ける人のことを考えて様々な工夫を施しています。ツアーでは「曾田さんはいつも機械で靴を作っている!? ○か×か?」というように、そのようなこだわりをクイズで伝えました。他にも、型紙を使わずに自分で一からつくっていることや、使う人と環境へのやさしさを考えて強力ボンドもあまり使わないこと等、曾田さんの仕事への向き合い方ややさしさを小学生に伝えました。

制作メンバー：
Give Me Shining Fish // チーム



澤本一志(中三) 高橋輝可(中二) 佐藤菜苗(中二)
小林快晟(中一) 坂井彪馬(小四) 太田幸(小二)
神山心温(小一) 浅井佑太(小一)

靴職人・曾田耕さんのアトリエ。ひとつひとつ手作りの靴や鞆は、使う人の気持ちを考えた工夫や配慮でいっぱい。中にはいろいろな形・大きさの革や道具があったり、製作途中の作品も飾られているとてもわくわくする空間。開放的なこのアトリエには、ご近所さんが気軽に集まり、ちょっとした挨拶や会話がよく生まれています。

どんなところ？
靴職人・曾田耕さんのアトリエ。ひとつひとつ手作りの靴や鞆は、使う人の気持ちを考えた工夫や配慮でいっぱい。中にはいろいろな形・大きさの革や道具があったり、製作途中の作品も飾られているとてもわくわくする空間。開放的なこのアトリエには、ご近所さんが気軽に集まり、ちょっとした挨拶や会話がよく生まれています。

人に
やさしい
まち



そ だ こう
曾田 耕さんアトリエ

：ACTION PLAN 01：人それぞれを大切にする

受け入れる！ 25万の個性の違い

「曾田さんにとってやさしいまちとは？」と聞くと『みんな違ってみんないい』と考えることと答えてくれました。その曾田さんの言葉にメンバー全員が共感して、アクションプランに取り入れました。なぜ共感できたのかというと、個性の違いを受け入れることが、人にやさしいまちにつながると思ったからです。人にやさしいまちとは、例えば、外国の文化の違いを受け入れたり、高齢者や障害者の方が出来ることと出来ないことがあることを受け入れる、そんなまちのことです。個性を認め合う気持ちがまちに広がっていくと、やさしい心、おもいやり心、おもてなしの心がまち全体に広がって、みんなが笑顔になっていくと思います。墨田区の人口は25万人。みんなの個性





ツアーで伝えた こんなやさしさ

さまざまな人を迎えるまちの居場所

吾嬬の里には、こどもからお年寄りまで、さまざまな人が活動を行えるように、たくさんの施設や設備が揃っています。小学生へのツアーでは、まず吾嬬の里全体を探検。たくさんの本の揃う図書室、いろいろな道具の使える工作室、和室やカフェを見学しました。野菜をみんなで育てる畑もあり、「ここの畑に植えてある野菜はなんでしょう!？」など、途中でクイズを出しながら吾嬬の里を探検しました。



心がほっとするふれあいの場

吾嬬の里では、人を迎えるだけではなく、人と人とのふれあいのきっかけになるような様々なイベントも実施しています。ツアーでは、吾嬬の里を利用するお年寄りと小学生が交流するきっかけをつくろうと、流しそうめん大会を開催。工作室で竹を使ったそうめんの入れ物を作ったり、畑で天ぷらにする野菜を収穫したり、調理室でそうめんをゆでたり、準備もみんなで行いました。流しそうめんにはたくさんの利用者の方が参加し、小学生とお年寄りがたくさんお話できたり、そうめんを取るのを競争したり、みんな楽しい時間を過ごしました。

制作メンバー：モノトーンチーム



折戸麗奈(中二) 清辺雄太(中二) 大城瑠治(中一)
小木遥愛(小四) 木村忠誉(小四) 島田雄太(小三)



する場づくりをしています。季節ごとに多様なイベントも行われ、地域に開かれた人々の交流の場としてたくさんの人が集まります。

人に
やさしい
まち

: ACTION PLAN 02 :

人と人とのふれあいの場をつくる
まちをみんなのお茶の間に



八広地域プラザ吾嬬の里

吾嬬の里は子どもからお年寄りまで、様々な人が遊べ、ふれあうことが出来る場所です。そこで知り合った人たちは、吾嬬の里から一歩出た地域でもふれあうことが出来ます。まさしく「まち」が地域の「みんな」の「お茶の間」になるのではないのでしょうか。ここでいう「お茶の間」とは、地域の交流や情報のことです。私たちは、「人と人との触れあいが増えると、もっとまちがよくなる。」と考えました。そして、私たちの望む未来は、人と人とがふれあえるお茶の間のような空間が、まち全体にあることです。そんな未来を願い、このアクションプランにしました。

どんなところ？

吾嬬の里は、地域コミュニティの活動拠点。音楽スタジオやホール、調理室や屋外運動場など、様々な活動のできる設備が整っています。人情や「近所つきあい」などを継承する「吾嬬文化」を大切にし、地域の人々とのふれあいや心のほっと



ツアーで伝えた こんなやさしさ

すみだ × 北斎を学ぶ紙芝居

葛飾北斎はすみだで生まれ育った浮世絵師。私たち墨田区民の大先輩です。小学生にすみだと北斎のつながりについてわかりやすく伝えるために、「北斎物語」という紙芝居を作りました。北斎の生まれた場所や生い立ち、絵を描くきっかけや技術などを物語にしました。自分の地域の先輩についてよく知ることで地域のことをもっと好きになるきっかけになったらいいと思います。



葛飾北斎を身近に感じるまち歩き

北斎通りまちづくりの会では、「すみだ北斎美術館」のオープンに向けて、北斎を通じたまちづくりを進めています。ツアーでは、会長の小林さんにお話を聞きながら、北斎通りをじっくり探検。小学生に北斎を身近に感じてもらうために、北斎の作品について説明するクイズ等を行いました。「北斎くんの好物は!?!」「北斎くんの意外な事実とは!?!」など、「北斎くん」についての楽しいクイズをたくさん出題しました。

制作メンバー：キャッツチーム



岡倉敬士(中二) 薬丸和音(中二) 坂井優友(中一)
藤田真緒(中一) 山口恭平(小四) 吉澤愛奈(小一)
橋本湊介(小一)



らはじまった北斎祭りでは保育園児が描いた浮世絵を展示するなど、「北斎」がキーワードのまちづくりを地域全体で進めています。

地域に
やさしい
まち

: ACTION PLAN 03 :

みんなで地域の文化を育む
やるのは私達だ!



北斎通りまちづくりの会

近

々、両国・錦糸町間にある北斎通りに、すみだ北斎美術館ができる予定です。その効果によって観光客が北斎通りにたくさん集まってくれるといいと思います。でも、「ゴミのポイ捨てや自転車放置が絶えなくなっていく危険があります。そうになると、せっかく墨田区に来て頂いた人に不快な思いをさせてしまい、全く、おもてなし“ができなくなってしまうと思います。”おもてなし“をするためには、やはり迎える側である私たち墨田区民の力が必ず必要になってくると思います。墨田区民である私たちが中心にマナーなどを守ろうと動かない限り、墨田区はあまり変わらない。墨田区を支えているのは、変えるのは、やるのは、「私達だ!」

どんなところ?

浮世絵画家の葛飾北斎は、墨田区生まれ墨田区育ち。両国と錦糸町を結ぶ「北斎通り」には、北斎を解説する看板や、北斎の作品があらわれた街路灯やトイレがあり、通り全体が北斎のギャラリーのようになっています。2006年か